

陸自幹部らの靖国集団参拝

新たな「英霊」祭る地ならし

先月、陸上自衛隊の小林弘樹陸上幕僚副
長ら幹部が靖国神社（東京都千代田区）に
公用車で集団参拝した問題で、宗教者から
怒りの声が上がっています。浄土真宗の門
徒や僧侶らでつくる「念仏者九条の会」共
同代表の小武正教さんに聞きました。

（取材班）

念仏者九条の会・共同代表

小武正教さんに聞く



小武正教さん

靖国神社は、戦前、を「英霊」として祭り、
旧陸・海軍省の管轄下 国民を戦争に動員する
にありました。戦死者 ための軍事的な宗教施
設だったのです。その
意味でも、今回の陸上
自衛隊による組織的な
靖国参拝は、到底許さ
れることではありません
ん。

昨年夏には、陸自の

戦意高揚の一翼 繰り返さない

元幕僚長が、自衛官の
戦死に備えて靖国神社
を国家の「慰霊顕彰施
設として復活させよ」
などと「日本会議」の
出版物で公然と主張し
ていました。

政府・与党は、20
15年の安保法制（戦
争法）の強行採決以
降、日本を「戦争する
国家」に変えようとし
ています。22年末には

「安保3文書」を閣議
決定しました。敵基地
攻撃能力の保有を可能
とし、軍事費も新年度
予算で8兆円近くに上
っています。

「戦う国は、祀（ま
つ）る国」と言われま
す。一連の戦前回帰と
もとれるような動きの
中で、今回の組織的参
拝があったと見るべき
です。今後、戦闘で自
衛隊員が亡くなったと
きに、新たな「英霊」
として祭ることへの地
ならしと考えざるを得
ません。

私たちは仏教徒も、戦
前は戦意高揚の一翼を
担ったという痛恨の歴
史があります。葬儀や
法要で、戦死した人間
をほめたたえました。
こうしたことを二度と
繰り返してはならない
という思いを強くして
います。「戦死」を先
取りするような今回の
組織的参拝に強く抗議
します。